

りんごの臨床医学総論(2年後期)

P	検査法	方法と症状等
109	関節可動域測定 (ROM) range of motion	四肢・体幹の各関節を運動させた時の可動範囲
113	徒手筋力検査法 (MMT) manual muscle testing	抵抗ある重力に抗して収縮する筋力を可及的に選択、量的測定する
120		正常・筋力5 強い抵抗 重力に打ち勝ち全可動域を完全に動く 優 ・筋力4 多少の抵抗 重力に打ち勝ち全可動域を完全に動く 良 ・筋力3 無抵抗 重力に打ち勝ち全可動域を完全に動く 可 ・筋力2 重力を除く 全可動域を完全に動く 不可・筋力1 関節は動かないが筋の収縮は軽度に認められる ゼロ・筋力0 筋の収縮が全く認められない
137	日常生活動作 (ADL) 検査 activities of daily living	一人の人間が独立して生活するために行う基本的な、各人共通の毎日繰り返される一連の身体動作群。 食事 衣服着脱 整容動作 トイレ 入浴動作 移動動作 コミュニケーション 生活関連(家事等)
140	運動機能 頸腕症候群の検査法	スパークリングの椎間孔圧迫検査法...頭部を患側に倒し前頭部に圧迫
		ジャクソンの過伸展圧迫検査法...頭部を健側に側屈、患側肩を押し下げる
		イトンの神経伸展検査法...(アタと手を別々にひっぱる)
		肩押し下げ検査法
		頸椎叩打法...頸椎をハンマーでたたく
		アレンの検査法...上腕を水平位まで外転、肘関節90° 屈曲し脈拍検査。頭部を強く健側に回旋し脈が微弱で陽性(椎間板ヘルニア、斜角筋症候群)
142	いわゆる五十肩の検査法	胸郭出口症候群検査法...モレイ検査法、アドソン検査法、エロン検査法、ライト検査法
		三角筋下滑液包テスト(ダウソン徴候)...肩峰下部の圧痛が、他動的に90° 外転すると消失する
		ペインフルアーク徴候(疼痛アーク徴候)...外転30°-110° で疼痛(棘上筋腱)
143	腰痛、挫骨神経痛症候群の検査法	ヤーガソン検査法...肘を90° 屈曲 検査は回内、患者は回外 痛いとは陽性
		上腕二頭筋長頭腱伸展検査...(長頭筋腱の腱鞘炎)
		ラセーグ徴候...仰臥位で膝を伸展させたまま股関節屈曲 疼痛(腰椎椎間板ヘルニア、挫骨神経痛、ハムストリングスの短縮)
144	股関節障害の検査法	ガワーズ・ブラガード徴候...仰臥位で膝を伸展、股関節屈曲、足関節背屈。
		ボンエット検査法...仰臥位で股関節と膝関節直角に曲げ、下腿の内旋内転
		上殿神経域圧迫テスト...(腰椎椎間板ヘルニア)
144	膝関節障害の検査法	パトリックテスト...股関節を屈曲外転外旋し多側の伸展した膝の上ののせる(仙腸関節、腸腰筋、股関節の病変では台につく外転不可)
		トーマス股屈曲テスト...患者に膝を抱かせる(股屈曲拘縮)
		トレンデレンブルグ徴候...先天性股関節脱臼、中殿筋麻痺
145	膝関節障害の検査法	マックマレーテスト...仰臥位で股関節と膝関節を最大屈曲、下腿を外反内旋クワック音や疼痛(半月板損傷)
		アブレイテスト...腹臥位で膝90° 屈曲、大腿固定、下腿内方に捻転 外側半月板損傷。膝外側に痛みがあれば外側側副靭帯損傷
		膝の側方動揺性検査法...膝を伸展位で外反、内反。側副靭帯損傷
145	片麻痺機能検査	膝の引き出し症状検査法...膝関節90° 屈曲位で下腿を前方に引き出す ラックマンテストの方が有効
	片麻痺機能検査	ブルンストロームの片麻痺機能テスト

りんごの臨床医学総論(2年後期)

c	疾患名	説明等	
150	発熱	原因疾患 感染症(白血球増加、血沈亢進、CRP陽性) 腫瘍 膠原病 代謝異常 アレルギー性疾患 吸収熱 組織障害 体温調整中枢障害 症状 発汗、皮膚の湿潤、顔面紅潮、脈拍数増加、筋肉痛を伴うことがある、不快感	
	152	片頭痛型血管性頭痛	ズキズキと周期的に
筋収縮性頭痛(緊縛感)		しめつけられる。後頭下部	
血管性および筋収縮性連合性			
血管運動神経性鼻炎による反応性頭痛		前頭部に局在	
心因性頭痛[+精神症状]		妄想、抑うつ病	
非片頭痛性血管性頭痛		ガンガン痛い。拍動性(高血圧、一酸化炭素中毒)	
153		頭痛	牽引制頭痛 悪心嘔吐があることも。(時々頭痛が半年...脳腫瘍)
		頭部組織の炎症	たがりに打たれたような激痛。脳炎、髄膜炎、クモ膜下出血
		眼疾患時の頭痛	眼内圧の上昇、眼精疲労。急に割れる痛み、目痛 緑内障
		耳疾患時の頭痛	
	鼻腔、副鼻腔疾患時	前頭部、額が重く夕方強まる	
	歯牙組織疾患時頭痛		
	頭蓋、頸部組織の刺激	頸椎の骨関節炎、リウマチ。動くとき増強	
	頭部神経炎	時々頭痛が半年 脳腫瘍	
	頭部神経痛	刺す痛み。三叉神経、舌下神経	
	155	めまい	大脳皮質性...ばくぜんとした不安定感、ぐらぐら感。てんかん発作の前兆。 眼筋性...眼筋麻痺(複視、固有知覚器の変調) 小脳性...小脳核の障害 耳性 迷路性...メニール病(めまい、難聴、耳鳴り)、ストローク、マイグレイ、カマイドウ、キネネ、コフィン 前庭神経性...小脳橋角腫瘍(聴力障害、耳鳴り、平衡障害、小脳症状) 脳幹性...脳血管障害、腫瘍、外傷、脳炎、多発性硬化症(聴力障害がない)
158		耳鳴り	外耳疾患(耳垢栓塞、異物) 中耳疾患(化膿性中耳炎、上鼓室炎) 耳硬化症 内耳疾患(内耳炎、メニール病、薬物中毒、老人性、職業性) 後迷路性、中枢性障害(聴神経腫瘍、髄膜炎、脳腫瘍) 全身性疾患(高・低血圧、貧血、動脈硬化症など)
		定義	会話音域の平均聴力損失が20dB以上のものを難聴、80dB以上を聾
		159	難聴
159	肩こり成立機序...筋の持続的緊張 疼痛 筋血行異常		
166	胸痛	狭心症 圧迫感、絞扼感 安静で数分で消失。ニトグリ効果的 心筋梗塞 激しい疼痛。冷汗、呼吸困難、意識障害 解離性大動脈瘤 ナイフで切り裂かれる様な激痛。顔面蒼白、頻脈・呼吸、発汗 胸膜炎 顔面蒼白、頻脈・呼吸、発汗 自然気胸 急に胸痛	
	167	肺梗塞	下肢の骨折、腹部・骨盤臓器の手術後、妊娠など腹圧上昇。激しい胸痛、呼吸困難、ショック
		带状疱疹	肋間神経に沿ってピリピリ
		肋骨骨折	
	169	腹痛	急性虫垂炎 心窩部痛、嘔吐 疼痛が回盲部へ(マックガーン-ネイット・ランツ点) 胆嚢疾患 右季肋部に疼痛。右背部・肩へ疼痛放散(発熱・黄疸) 急性脾炎 心窩部痛、左季肋部に激しい腹痛 左背部、肩へ放散(発熱・悪心・嘔吐・血中&尿中アミラーゼ高値) 胃・十二指腸潰瘍 空腹時の心窩部痛(潰瘍部から出血するとタール便) 腸閉塞(イレウス) 腹部全体に間欠的・持続的疼痛。排便無、悪心嘔吐、糞臭 腎・尿管結石症 肋骨脊柱角or腰部に激痛 側腹・下腹・単径部・陰部・大腿内側部へと放散
		便秘	*神経性便秘 習慣性便秘 脊髄疾患 巨大結腸症(ヒルシュシュプルング病) 先天性疾患 最も頻度が高い 脊髄癆、脊髄腫瘍 反射障害
薬剤...アヘン、モルヒネで小腸、大腸興奮			
		*筋性便秘...全身衰弱、肥満、妊娠、腹水	*機械的便秘...通過障害

りんごの臨床医学総論(2年後期)

c	疾患名	説明等
178	不眠	*早朝覚醒 寝つきはよく朝早い(うつ病、老人性精神障害) *入眠障害 寝つきが悪い。神経症 *熟眠障害 多夢。熟睡できない *途中覚醒
	肥満とやせ	症候性肥満 内分泌障害... クッシング病 、甲状腺機能低下症、性腺機能低下症 遺伝性視床下部障害症... ロ-レスム-ル-トル症 外傷性...頭蓋底部骨折 炎症性... 髄膜炎・脳炎 脳腫瘍...松果体腫瘍、下垂体腫瘍
		症候性やせ 内分泌障害... 甲状腺機能亢進症 、 アジソン病 、 シモンズ病 、 シ-ルシ症候群 慢性薬物中毒 脳および精神疾患... 神経性食思不振症 、 精神分裂病 慢性消化器疾患 局所的脂肪消失... 進行性脂肪異栄養症
182	咳と痰	原因疾患 咽頭・喉頭疾患 慢性炎症、結核、百日咳、がん... からせきで嘔声 を伴う 気管・気管支疾患 急性・慢性気管支炎、気管支拡張症、結核... 痰 を伴う 肺疾患 肺炎、肺結核、肺化膿症、肺水腫、肺繊維症... 膿性や血痰も 胸膜・縦隔疾患 胸膜炎、縦隔腫瘍... からせき
		定義 体液は細胞内液と細胞外液に分かれ、細胞が胃液は血漿と組織間液に分かれる。浮腫とは組織間液の増加した状態。限局性のことも全身性のこともある。
		原因疾患 心性浮腫 腎性浮腫 肝性浮腫 うっ血性心不全 腎炎、ネフローゼ症候群 肝硬変 栄養性浮腫 内分泌性浮腫 栄養失調 下垂体、副腎、甲状腺異常
185	発疹	原因疾患 急性感染症 麻疹、風疹、しょう紅熱、発疹チフス、パラチフス、伝染性紅斑、泉熱、水痘、細菌性心内膜炎、つつが虫病、 ブルセラ症 薬物中毒疹 バルビタール 、 ピリン系薬剤 で固定疹。 サルファ剤 、 降圧利尿剤(サイザイト剤) 、 クロールプロマジン で日光過敏症。抗生物質で真菌性疾患。 膠原病 SLEの蝶形紅斑 、 ベーチェット病 で口腔アフタほか その他 白血病 、 紫斑病 で皮下出血、粘膜出血。 帯状疱疹 で紅反、水疱
		治療(筆記で出る!) 安静 椎間板ヘルニアなどによる急性の腰痛はまず安静を保つ。患者の楽な姿勢を取らせる。背臥位の場合は膝窩部に座布団などを入れて股関節・膝関節を軽度屈曲位とし、腰仙部の前弯をとるようにする。ベッドは固めがよい。 薬物療法 腰痛 筋緊張 - 循環障害 - 腰痛といった悪循環を遮断することに目的がある。鎮痛剤、抗炎症剤、筋弛緩剤、精神安定剤、循環改善剤、ビタミン剤(B1、B6、B12)などを投与 牽引療法 原因に応じて持続的または間欠的に骨盤を牽引する 硬膜外ブロック療法 急性期の腰痛、挫骨神経痛などに対して、ステロイド剤、キシロカインなどを硬膜外に注入する 理学療法 急性期の腰痛はむしろ冷法が好まれるが、慢性期の腰痛にはホットパック、超短波などによる温熱療法 コルセット療法 長期間の使用は腰背筋・腹筋の萎縮をきたすので、いたずらに長く使用しない注意が必要。夜間ははずす 体操療法および日常生活の注意 背筋、腓腹筋などの緊張や拘縮を緩解し、腹筋や殿筋などの強化を図る体操を行う。腹筋に力を十分加えないで重いものを持ち上げたり、腰をかがめて不用意にのびたりしな
		原因疾患 急性感染症 麻疹、風疹、しょう紅熱、発疹チフス、パラチフス、伝染性紅斑、泉熱、水痘、細菌性心内膜炎、つつが虫病、 ブルセラ症 薬物中毒疹 バルビタール 、 ピリン系薬剤 で固定疹。 サルファ剤 、 降圧利尿剤(サイザイト剤) 、 クロールプロマジン で日光過敏症。抗生物質で真菌性疾患。 膠原病 SLEの蝶形紅斑 、 ベーチェット病 で口腔アフタほか その他 白血病 、 紫斑病 で皮下出血、粘膜出血。 帯状疱疹 で紅反、水疱
		定義 末梢神経の障害によって起こる疼痛で、神経走行に一致し、激烈で発作性、持続は短く、特有な圧痛点のあることなどを特徴とする症候名である。
189	神経痛の定義	末梢神経の障害によって起こる疼痛で、神経走行に一致し、激烈で発作性、持続は短く、特有な圧痛点のあることなどを特徴とする症候名である。